



# ぬくもり

旭川市神居1条17丁目 Tel 62-2932 令和2年10月9日発行 第6号

## 社会性の基礎となる「自己有用感」

校長 澤田 匡史

三日間にわたり開催した「運動会」は、三密を避けるために規模を縮小しましたが、子どもたちは徒競走とマラソンで、最後まで精一杯自分の力を発揮することができ、大きな成果をあげることができました。

また、ご多用の中、多くの保護者の皆様にご来校いただき、本当にありがとうございました。皆様のご声援が、子どもたちのやる気を高めたことは言うまでもありません。PTAの皆様には、会場係としてご協力いただきましたことに、重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。



先日、子どもや若者の実態に迫る「子供・若者白書」が内閣府から発表されました。今号では昨年の調査結果に注目して、子どもの支援について考えたいと思います。

### <平成元年度調査結果のポイント>

○日本の若者は、諸外国の若者と比べて、自身を肯定的に捉えている者の割合が低い傾向にあるが、日本の若者の自己肯定感の低さには自分が役に立たないと感じる自己有用感の低さが関わっている。

自己肯定感が高い子どもは、情緒が安定し、規範意識や社会的な適応能力が高く、学習成績なども良い傾向が見られると言われています。しかし、各種調査結果から有識者の多くは、日本の子どもの自己肯定感はまだ高くないと指摘しています。小学生の自己肯定感、学年が進むにつれて低下し、6年生のときが最も低い傾向にあるようです。自己肯定感が思春期に低下することを踏まえ、低学年から中学年ぐらいいままでに自己肯定感をしっかり高めていくことと、高学年では低下させないことに努めなければなりません。

自己肯定感にはプラスとマイナスの価値の両方が含まれていることを決して忘れてはなりません。自己肯定感の高い子どもの中には、自己中心的でわがままな子どもがいるのです。自己肯定感の育成に当たっては、他者との比較に着目した方法だけではマイナス面が危惧されることから、自己有用感を感じさせることで自己肯定感を高めることが大切だと考えます。

自己有用感とは、自分が誰かの役に立っているという感覚のことだと捉えてよいと思います。これは自分一人では得られません。例えば、家族の手伝いをしてありがとうと言われたり、進んで教室の掃除をして褒められたりするなど、誰かの役に立った、プラスになったという事実に対して、ポジティブな声掛けをすることで自己有用感が高まります。自分は役に立つ！と感じられるようになるためには、役割を与え、その結果を評価することが大切なのです。

また、あなたのおかげだよと「あなた」と限定することで、その子ども自身が誰かの役に立っていることが自覚できます。その結果、自分は誰かの役に立っている、だから自分には価値があるのだと自己肯定感が高まることにつながるのです。子どもの自己肯定感を高めるには、家庭における愛情はとても大切ですが、思い切り遊んだり、地域で多様な人と触れ合ったりする機会を増やすことも必要だと考えられています。

自己有用感が高い傾向にある子どもの意識や行動の特長は、「自己肯定感が高く、自信がある。」「他者に対して思いやりのある行動ができる。」「他者と協働できる。」「学習への意欲が高く、自主的・自律的な生活ができる。」「と言われています。

学校では、児童会活動や学級の当番・係活動、対話的な学習や協働的な学習を進めることで、子どもたちの自己有用感を高めています。

10月から学校は後期に入っています。子どもたちは気分を新たに、10月下旬に予定している学習発表会に向けた活動を始めます。今後も、子どもたちの更なる成長のために変わらぬご支援をお願いいたします。

